

■よくある質問

【木曾川水系河川整備計画について】

問：なぜ長良川は平成16年10月洪水を整備目標としているのですか。

(回答)

- 平成16年10月洪水は、長良川において戦後最大の流量を観測した洪水であるため、当面の整備として、長良川の河川整備はこれと同規模の洪水を安全に流下させることを目標としています。

問：平成16年10月洪水を上回る洪水に対しても安全に流下させるよう整備を行う必要があるのではないですか。

(回答)

- 河川整備計画は、将来目標である河川整備基本方針に対し、当面の整備として、概ね20～30年で効果を発現させる事業計画を立案しています。
- このような考えのもと、長良川については、戦後最大洪水となる平成16年10月洪水と同規模の洪水が発生しても、安全に流下させることを河川整備計画の目標としています。

【長良川遊水地の候補地選定について】

問：長良川遊水地の候補地として、なぜ美濃市横越地区と関市池尻地区が選ばれたのですか。

(回答)

- 長良川遊水地の候補地選定にあたっては、効果や事業費等より総合的に判断し、池尻地区と横越地区の2箇所が候補箇所として選定されました。

問：美濃市横越地区および関市池尻地区以外の候補地では遊水地整備は行わないのですか。

(回答)

- 従来から遊水機能を有する地域については、木曾川水系河川整備基本方針を見据えて、その機能の積極的な保全に努めるとともに、将来的な遊水地としての整備も視野に入れるなど、総合的な治水対策を関係機関と連携・調整しながら検討してまいります。

【遊水地等の整備について（美濃市横越地区）】

問：横越地区における河川整備の基本的な考え方を教えてください。

(回答)

- 遊水地整備及び長良川本川の河道掘削により、平成16年10月洪水と同規模の洪水を計画高水位以下で流下させることとし、遊水地はそのために必要な貯水容量を確保することとしています。

- なお、河道掘削は河川環境に配慮して、平水位以上のみを掘削することとしています。
- また、遊水地整備と合わせ、左岸堤防の老朽化対策を行います。



※令和4年9月時点での検討状況を示すものであり、今後変更となる場合があります。

問：遊水地整備後、左右岸の堤防高はどのくらいになるのですか。

(回答)

- 右岸の周囲堤の高さは上流から下流まで約 T.P.63.6m となる予定です。左岸は現況の堤防高を踏襲するため、72.2k 地点では約 T.P.62.5m となる予定です。

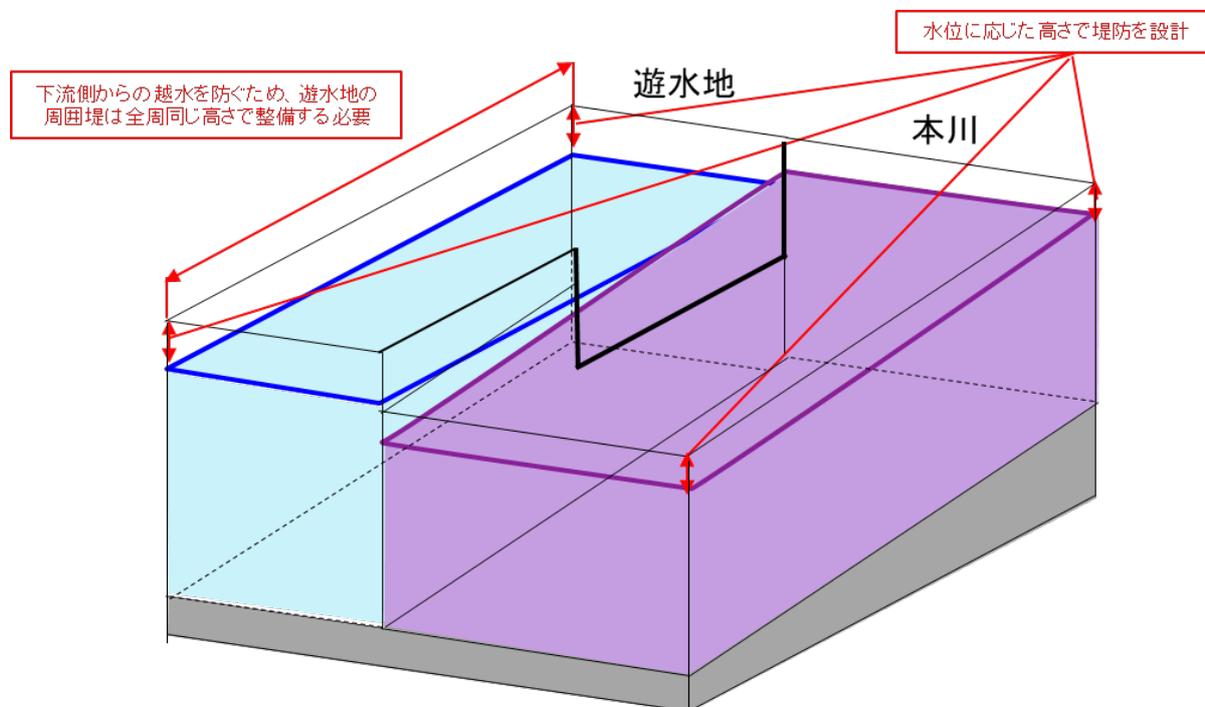


※令和4年9月時点での検討状況を示すものであり、今後変更となる場合があります。

問：遊水地区間で左右岸の堤防の高さを揃えるべきではないですか。

(回答)

- 本川を流れる水は下流に向かって流れており、上流の水位よりも下流の水位が低くなっています。
- 一方、遊水地内は水の流れはなく、水平に水が貯まることから、遊水地の周囲堤は上下流とも同じ高さで整備する必要があります。



【本川と遊水地の水位イメージ】

問：遊水地整備により、道塚堤防（左岸堤防）の危険性が高まるのではないですか。

(回答)

- 洪水による堤防決壊の原因は①越水、②浸透、③侵食の3つに分類されます。
- 越水については、遊水地整備により水位が下がるため、越水の可能性は現況よりも低減します。
- 浸透については、令和3年度に地質調査及び浸透流解析を行い、浸透に対する堤防の安全性が基準を満足していることを確認しています。
- 侵食については、老朽化対策として左岸堤防の補修を河川構造物設計要領に基づいた構造で行います。

問：大きな地震に対しても左岸堤防や遊水地は安全でしょうか。

(回答)

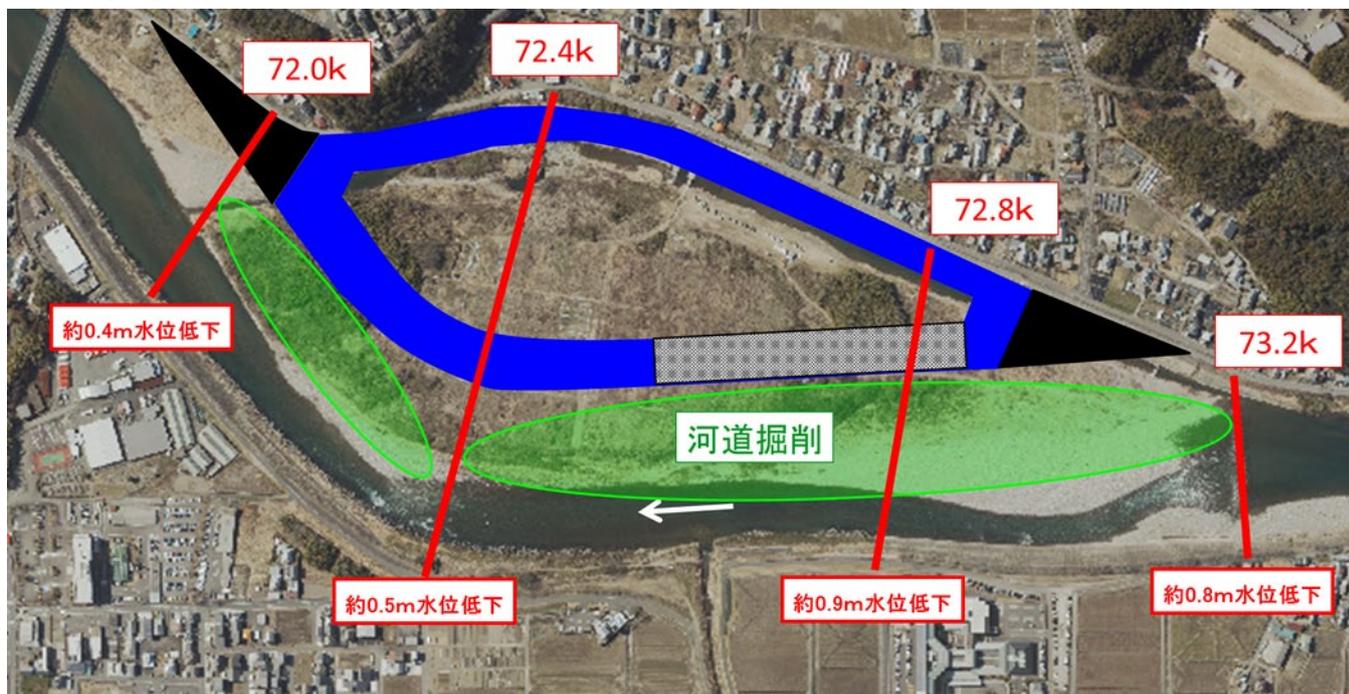
- 大きな地震が発生した場合でも、左岸堤防の安全性が基準を満足していることを確認しています。
- 新たに整備する遊水地は、地震に対しても安全性が基準を満足する施設として整備する予定です。

【遊水地整備等による効果について（美濃市横越地区）】

問：河川整備による水位低下効果はどの程度ですか。

（回答）

- 遊水地整備及び長良川本川の河道掘削により、平成 16 年 10 月洪水と同規模の洪水に対し、遊水地の直上流（73.2k）で約 0.8m、直下流（72.0k）で約 0.4mの水位低下効果を見込んでいます。



※ 令和4年9月時点での検討状況を示すものであり、今後変更となる場合があります。

問：左右岸で堤防の高さが最大で 1m 程度違うため、左岸が危険になるのではないですか。

（回答）

- 遊水地内は遊水地内の水位、本川は本川の水位、それぞれの水位に応じた高さで堤防を設計しており、どちらも水面から堤防天端までの高さが同程度となるよう設計していますので、左岸が右岸よりも危険とはなりません。

問：遊水地区間において、川幅が狭まるにもかかわらず、水位が下がるのはなぜですか。

（回答）

- 遊水地整備により川幅は狭まりますが、遊水地整備と合わせて長良川本川の河道掘削を行うことで現況よりも流れやすい河道になるため、川幅が狭くなったとしても水位は低下します。

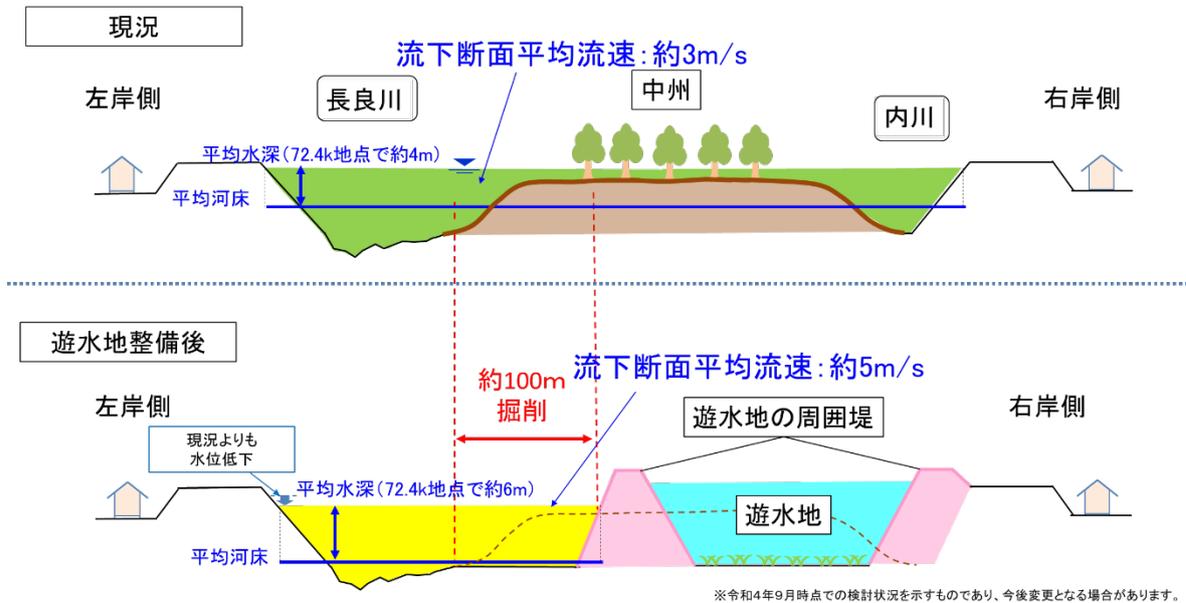
問：なぜ遊水地整備及び河道掘削後の河道のほうが流れやすい河道になるのでしょうか。

（回答）

- 一般的に、水深が深いほど流速が速くなります。

- 現況の河道は、川幅は広いもののその大部分は水深が浅く流速が小さい一方、遊水地整備後の河道は、川幅は狭くなるもののその大部分は水深が深く流速が大きくなるため、遊水地整備後の河道の方が流れやすい河道といえます。
- なお、平成16年10月洪水と同程度の洪水が発生した場合におけるピーク時の平均的な流速（流下断面平均流速）は、整備前が約3m/sであるのに対し、整備後は約5m/sとなります。

平成16年10月洪水と同規模の洪水が発生した場合のイメージ図(越流堤より下流部)



問：遊水地整備及び河道掘削により断面平均流速が速くなると、左岸堤防が危険になるのではないのですか。

(回答)

- 断面平均流速は、流れの速い箇所と遅い箇所を平均した流速であり、任意の地点での流速を示したものではないため、左岸堤防付近の流速の変化を断面平均流速の変化で評価するのは適切ではありません。
- 一般的に、水深が深いほど流速が速くなるため、左岸堤防の流速の変化は、整備前後での水深の変化に着目する必要があります。
- 遊水地整備及び河道掘削により、左岸堤防付近の水位が低下するため、水深は浅くなり、流速は遅くなります。
- 加えて、遊水地整備と合わせて左岸堤防の老朽化対策を行うため、左岸堤防は現況よりも安全になります。

問：平成16年10月洪水を上回る洪水に対して、遊水地周辺は危険にならないのですか。

(回答)

- 平成16年10月洪水を上回る洪水（超過洪水）に対しては、遊水地が満水となり、遊水地による洪水調節ができなくなることが考えられます。

- 遊水地整備と合わせて河道掘削を行い、現況よりも流下能力の高い河道を整備する計画であるため、仮に遊水地による洪水調節ができなくなり河道のみで洪水を受けることとなった場合でも現況よりも安全になります。

【河川環境への配慮について】

問： 遊水地整備を行う上で、河川環境への配慮はどのように行う予定ですか。

(回答)

- 遊水地の整備においては、事業箇所及び周辺を含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全に努めてまいります。
- このため、木曽川上流河川事務所では、その具体的な手法を検討するため、「長良川遊水地河川環境調査検討会」を設置し、有識者にご意見を伺いつつ検討を進めています。
- 令和3年12月24日開催した第1回検討会では、検討会の進め方、長良川遊水地事業における河川環境保全の基本的な考え方等について事務局より説明し、了承されました。
- 引き続き、事業箇所及び周辺の環境調査・対策手法及びモニタリング計画を取りまとめまいります。